

女性活躍の未来

国連が3月8日を「国際女性デー」に制定して今年で50年を迎えます。また、毎年3月1日から3月8日は、厚生労働省が定める「女性の健康週間」です。女性が生涯を通じて健康で充実した日々を過ごし活躍できるよう、全国で女性の健康づくりに関する普及啓発が行われています。今回のコラムでは、女性の健康課題の解消と、女性活躍推進の関係について考えてみましょう。

女性の健康課題がキャリアに及ぼす影響

「働く女性と生理」をテーマに実施したアンケートでは、92.9%が「働く上で『生理』に関して、悩みや不安を抱えたこと」があると回答しており、87.8%が「働く上で『生理』が原因で、仕事に支障をきたしたこと」があると回答していますⁱ。また、不妊治療との両立困難による雇用形態の変更や離職、更年期症状を理由とする昇進辞退や退職など、ライフイベントに起因する望まないキャリアプランの断念が問題となっています。経済産業省によると、女性特有の健康課題による労働損失等の経済損失は社会全体で年間約3.4兆円と試算ⁱⁱされており、女性特有の健康課題が与える社会的なインパクトがとても大きいことがわかります。



フェムテックとフェムケアの進化

近年、女性特有の健康課題解消の一助となるものとして注目されているのは、フェムテック(FemTech)とフェムケア(FemCare)です。フェムテックとは、「Female(女性)」と「Technology(技術)」の造語で、生理や更年期など女性特有の悩みを先進的な技術で解決することを指します。一方フェムケアは「Feminine(女性)」と「Care(ケア)」を組み合わせた造語で、特定のテクノロジーによらず、様々な方法で女性特有の健康課題をケアする製品・サービスの総称ですⁱⁱⁱ。フェムテック、フェムケアの一例としては、環境に優しい月経カップや吸収ショーツ、月経管理アプリ、オンライン診断、ホットフラッシュの対策製品等があります。これらを活用することで、不快感の減少に繋がるだけでなく、健康の自己管理意識の向上、予防医療(早期発見・早期治療の実現)の促進、健康リテラシーの向上にも繋がり、女性が自身の健康について主体的に考え行動するための強力な味方となりそうです。

健康課題から働き方を考える

フェムテックやフェムケアについて注目が集まる今、女性の健康課題について男性のあいだでも認知度は上がってきています。月経や出産、不妊、更年期など、女性特有の健康課題やライフイベントにかかわる悩みは、本人だけでなく社会全体で共に解決していくことが重要です。例えば、職場の上司や周囲の従業員が女性特有の健康課題について理解を深めることで、女性本人だけでなく、男性もパートナーの女性の体調の変化について職場で相談をしやすくなり、在宅勤務や時間単位の休暇取得など、柔軟で多様な働き方の実現に繋がります。性別に関わらず互いの身体について理解し合うことが、女性のエンパワーメント(女性が個人や社会集団として意思決定過程に参画し、力を発揮すること)を後押しすること、さらには誰もが働きやすい環境づくりを実現するきっかけになるでしょう。

【出典・引用・参考文献】

i. 株式会社 Be-A Japan 「約9割が生理で仕事に支障がある—国際女性デーに考える『働く女性の権利と生理』2025年3月7日」
<https://mag.withbe-a.com/news/1460/>

ii. 経済産業省「女性特有の健康課題による経済損失の試算と健康経営の必要性について」
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/downloadfiles/jyosei_keizaisonshitsu.pdf

iii. 男女共同参画局 コラム3「女性活躍とフェムテック」
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r06/zentai/html/column/clm_03.html